

岡山 史料ネット Newsletter Vol. 1 2019.3

倉敷市真備町で被災した史料

創刊にあたって

岡山史料ネット代表 今津勝紀

1995年1月の阪神淡路大震災を契機に、地震や水害などの災害で地域の歴史資料が失われることを少しでも防ごうというボランティア運動、すなわち史料ネット運動が始まりました。ご承知のように、これ以降、日本列島の各地で大規模な災害が繰り返し発生しますが、災害にとともに、私たちの生命とともに、生活の場、生活の痕跡を伝える「大切なもの」が深刻な危機に見舞われます。

人には生きてゆく上で、拠り所とする「大切なもの」が誰にでもあります。これは家や町、社会や民族、さらには人類にとっても同様でしょう。第二次世界大戦で焼け野原になった岡山城下で、岡山城天守閣の「再建」が目指されたのも同様の意味をもっていました。高度経済成長期に岡山城の天守閣は「再建」されますが、岡山という場を共有する人たちの「大切なもの」、シンボル、拠り所として天守閣が必要だったのだと思います。ほぼ同時期に『岡山市史』の編纂も行われますが、これも過去を振り返ることで、自らの位置を確かめ、これから進む方向を再認識することであり、いずれも市民の未来に向けての事業でした。

こうした「大切なもの」について、災害が発生してからそれらの保全をはかるだけでなく、事前に何かできることはないか、災害に見舞われる前に、予防的にネットワークを作り、準備しておこ

うというのが本会の出発点です。こうして日本最初の予防型ネットとして、2005年に市民のボランティア組織として本会はスタートしました。

以来、県内で関心をともにするみなさんとともに、講演会やワークショップを重ねてきました。2014年からは、県内の行政機関や博物館協議会・建築士会などとも連携した岡山県文化財等救済ネットワークもスタートし、岡山県内に多様なネットワークを構築して、いざという時に備えてまいりました。今回、2018年7月6日の豪雨は、西日本各地に大きな被害をもたらし、岡山県内でも倉敷市・岡山市・総社市・高梁市ほか各地で被害が発生しました。本会もさまざまなレスキュー活動を展開し、予防型ではなく実践型のボランティア組織へと移行することになりました。

当初の想定通りに運ばなかったことも多くありましたが、事前にネット事業がスタートしていたことで、岡山大学・ノートルダム清心女子大学など県内の大学、県・市の諸組織・機関とのスムーズな連携が実現したことは、全国的にも注目される大きな成果だと思います。現在、緊急搬送したものを安定化させる作業へと移行していますが、返却を完了するまでには、息の長い活動になることと予想されます。みなさまのご支持とご支援をお願いする次第です。



芸術・文化による
東西復興支援
ファンダ

岡山史料ネットの「2018年7月豪雨災害被災地域の文化財修復活動」は、芸術・文化による災害復興支援ファンド（GBFund）より、助成金の採択を受けました。

活動報告 (2018年1月～2018年12月)

2018年1月20・21日、第4回全国史料ネット研究交流集会在岡山市のノートルダム清心女子大学を会場として開催され、①災害発生後に限らない平常時の取り組み、②文献史学以外の他分野との連携という2つのテーマに焦点を当て、2日間で合わせて2つの基調講演、13の口頭報告、14のポスター報告がなされた。前年9月の打ち



家資料のレスキュー

合わせ以降、歴史資料ネットワークのご協力を得つつ進められた開催準備は、開催地・岡山にとって平常時の活動の一環として、関係者の貴重な交流の機会となった。各講演・報告の内容について

は、報告書をご覧ください(国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進本部のWEBサイトで公開済)。

岡山史料ネットは災害に備えた活動を主とするため、同集会の開催が2018年最大の活動とならずだった。7月に西日本豪雨が発生するまでは。7月5日から大量の雨が降り始め、翌6日には県内各地で大雨特別警報が出される。同日夜には、高梁川や小田川など複数の河川が氾濫警戒水位となる。これまで「いざという時」のために準備をしてきたが、降り続く大雨によってついに「いざという時」がやってくることは、そして実際に災害対応にあたることになることは、この段階に至っても全く想定していなかった。

しかしながら、7日昼には倉敷市真備町をはじめとして、岡山市、総社市、高梁市など岡山県内各地に甚大な被害が及んでいることが明らかになる。厳しい現実と向き合わなければならない。同日夜に関係者に情報共有

整理・修復作業



を呼び掛け、情報収集・発信のためにtwitterアカウントを開設した。

被災資料の情報がなけ

れば何もできない。それでも、浸水した家屋の片付け作業は命に危険を及ぼす暑さの中行われており、現地で活動できる余地は全くない。まずは関係者による打ち合わせや巡回調査、資料保全を呼び掛けるチラシの配布などにより、情報収集・共有を行った。

7月下旬になると被災資料の情報が入るようになり、倉敷市立真備図書館・真備歴史民俗資料館でのレスキューをはじめとして合わせて6つの資料群、約1000点を救出した。そのなかにはこれまで所在が確認されていなかった資料群もある。救出した被災資料のほとんどは、かなりニオイがありカビや腐敗が進んでいるので、冷凍保管をして状態悪化を防ぐ必要があった。ただ、事務局の置かれる岡山大学に使用できる冷凍庫はなく、岡山県立記録資料館など県施設の冷凍庫に一時保管させていただいた。



岡山大に搬入されたM家資料

県施設で冷凍していた被災

資料は、新たに購入し岡山大学に搬入された冷凍庫に少しずつ移し、いただいた寄付金などをもとに冷凍庫以外の物資も購入し、被災資料を安定化させる作業の準備を進めた。事務局メンバーなどで作業手順を慎重に確認し、体制の整った10月中旬からは週1回程度、洗浄と乾燥を中心とした整理・修復作業を始めた。作業の継続は、ご参加いただいているボランティアのみなさんのご協力があるからこそ可能となっている。ご協力に改めてお礼申し上げたい。

なおこの間、岡山県立記録資料館による倉敷市立真備図書館公文書レスキューや倉敷市による公文書レスキュー、岡山県立美術館・ノートルダム清心女子大学と絵画修復工房YeYによる「大切なもの」レスキューが行われた。これらの取り組みとも情報交換・連携を行った。(文責・上村和史)

ボランティア活動参加記

西日本豪雨レスキュー資料修復整理ボランティア参加記

川鍋 暢子

豪雨に際し、被災された方が近くに大勢いらっしゃるのに、私はただおろおろするばかりで何もできず、不甲斐なさを感じながら過ごしていました。そんな時、偶然 NHK ラジオで資料修復整理ボランティアを知りました。もともと紙に触れることが好きでもあり、お手伝いしたいと思いました。何度かお伺いして一番驚いているのは紙に書かれたものの強さです。日常生活でのデジタル化が進み、何を書くにもパソコンを使い、紙媒体のものもスキャンして保存しています。しかし保存に使うハードディスクはどのくらいまでもつのでしょうか。そういえばワープロ専用機時代のフロッピーディスクは、今や容易に開くこともできなくなってしまいました。一方紙に書かれたものは焼失しない限り、一部分であっても見える形で残ります。実際和紙や墨の強靭さには作業のたびに感心します。洗浄には慎重さが必要ですが和紙は思いのほか丈夫ですし、墨の色などはつい昨日書かれたもののようです。

しかし紙同士がくっついて開くことが難しい冊子もありました。早期のレスキューがかなわず1ヶ月くらい泥の中にあったものなのだそうです。泥に紙の繊維が絡んでいるのか、あるいは紙が泥と一体化しつつあるのか……何とか開けることができないものかと作業に没頭しているうちにふと、こうした状態になっているのは何も資料だけではないのだということにあらためて思い至りました。

何度か通ううちに、自分が作業に慣れてきたような感覚になることがあります。けれども長い間大切に保存され、本来なら私が触れることのできなかった貴重な資料です。そのことを忘れずにお手伝いを続けたいと思います。

史料洗浄作業に参加して

堤 智章

私は史料レスキュー活動に関心があったこともあり、岡山大学文学部で行われた、豪雨災害で被災した史料の洗浄作業に参加しました。既に洗浄・乾燥された史料の整理や、史料を水に浸して表面に付着した泥などの汚れを取り除く作業を行いました。新聞紙や段ボールを使っていて、意外と身近なものを作業に使っていることに驚きました。乾燥させた史料は一枚一枚をはがすのにとても気を遣い、せっかく救出された史料を破損させはしないかと不安になりました。洗浄作業では水が思いのほか冷たく、この作業を長期間にわたって行うのは困難だなと感じました。一つの作業を終えるのに多くの時間と手間がかかり、作業時間全体を通して処置し終えた史料は意外と少ないと感じました。史料のレスキューならびにこういった保存活動は丁寧に、かつ地道に行われているという事を実際の作業を通して実感しました。日本は災害の多い国であり、今回の豪雨災害のように大規模な災害が頻発すればレスキューや洗浄にあたる場所や人員が枯渇して十分な処置が行えなくなる危機感は常にあると思います。一点当たりにかかる手間が思ったよりも多いことや史料を保管する場所の問題など今後クリアしていくべき課題の大きさも感じました。資料の保存はこういった地道で大切な作業に支えられており、このような活動がより多くの人々に認知され、協力してもらえるとより良い史料保存作業が進んでいくと感じました。まだまだ史料保存に関して十分な経験を得ていないので、今後も時間を見つけて作業に参加し、史料保存活動の一端を担いたいと思います。

お知らせ

岡山史料ネットは2018年10月10日より規約を定め、会員制に移行しました。

規約は当会 web ページでご確認ください (<http://okayamasiryonet.s1008.xrea.com/history/>)

2018年度の役員は以下のとおりです。

《運営委員》今津勝紀(代表委員)・藤實久美子(副代表委員)・上村和史(事務局長)・徳永誓子(会計)・
村井良介(広報)・東野将伸(書記)・飯島章仁・内池英樹・福富幸・前田能成・山下香織・山下洋
《監査委員》定兼学・清家章

歴史資料保全活動への支援募金のお願い

被災状況の調査や、被災資料のレスキュー、クリーニング作業など、活動継続のための資金が必要です。募金にご協力いただける方は、下記口座にお振り込みいただければありがたく存じます。

ゆうちょ銀行総合口座(普通口座)

【記号】15470 【番号】38569531 岡山史料ネット(オカヤマシリョウネット)

(他の金融機関からの振込の場合)

【店名】五四八 【店番】548 【預金種目】普通預金 【口座番号】38569531

昨年の西日本豪雨災害の後、みなさまから多くのご寄付をいただきました。また、神戸の歴史資料ネットワークを通じてご寄付いただいた方もあります。記して厚く御礼申し上げます。

《2018年度にご寄付をいただいたみなさま》

青木充子・朝尾直弘・在間宣久・岩田牧子・榎俊幸・金谷芳寛・狩野久・川瀬伊人・桐部恵子・倉地克直・久留島浩・小島徹・杉本(山田)史子・首藤ゆきえ・高畑富子・田中豊・富善一敏・友田美由紀・納所豊・東万里子・久野修義・三宅正浩・村上岳・山下洋・山本太郎・山本秀夫・歴史資料ネットワーク・渡辺祐子(五十音順、敬称略)

入会のご案内

岡山史料ネットは、災害から歴史資料などを守る活動を中心に、歴史資料や広い意味での文化財の保全と活用を実践的に進めるボランティア組織です。会員は大学関係者や学芸員、一般市民の方などが幅広く参加しています。入会を希望される方は、下記事務局までご連絡ください。

事務局 〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学文学部日本史研究室内

電話 086-251-7442

e-mail okayamasiryonet@gmail.com

URL <http://okayamasiryonet.s1008.xrea.com/>

Twitter @okayamasiryonet

GBFund

芸術・文化による
災害復興支援

●●ファンド●●

企業メセナ協議会